【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和４年度学校評価 計画

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	鳥栖市立基里小学校

1　前年度 評価結果の概要	・「児童が将来に夢や希望を持っている」と回答した保護者の割合が低かった。キャリア教育に繋がる様々な体験活動や交流活動が不十分だったのではないかと思われる。 ・児童の学力向上（思考力・表現力の育成）をめざすためには、校内研究を軸にした授業力改善が更に必要である。 ・月平均の時間外勤務時間が市内の小学校と比較して多い。働き方改革に向けて教職員の意識の改革、仕事の精選が求められる。 ・小中一貫でリモート等も活用しながら教職員の研修会等を行うことはできたが、小中学校児童生徒の交流（乗り入れ授業や体験活動）が不十分だった。
2　学校教育目標	「誇りと生きる力を身に付け、心身ともに豊かな基里っ子」の育成 ～　みんなが気持ちよく過ごすことのできる学校にしよう　～
3　本年度の重点目標	・地域人材を活用し、キャリア教育に繋がる様々な体験活動や交流活動を工夫することで、将来に夢や目標を持ち、地域や学校を誇りに思う児童を育てる。 ・校内研究を軸にした授業力改善を行い、児童の更なる学力向上をめざす。 ・ＰＴＡや学校運営協議会との連携を図るとともに、今年度見直した教育計画を基にして、積極的に業務改善を行う。働き方改革に向けて教職員の意識を高め、時間外勤務時間の削減を実現させる。 ・新型コロナウイルス感染防止を徹底しつつ、小中学校児童生徒の交流活動や教職員の研修会等を行うなど、小中一貫教育の充実を図る。

4　重点取組内容・成果指標　　**中間評価**　　**5　最終評価**

(1)共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ・家庭学習の充実 ・読書の推進	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 〇学校評価アンケートによる家庭学習の徹底率保護者・児童・教師各々90%以	・少人数指導、TTによる指導の充実 ・家庭学習重点シートを用いた家庭学習の振り返り ・貸し出し冊数の増加と読書ジャンルの広がりの推進		・		・		・	
	〇主体的・対話的な学びを目指した授業力改善	〇学力状況調査（算数科）・CRTテスト（算数科）における思考力・判断力・表現力等の正答率を県平均を上回る。 〇授業作りステップ1・2・3のチェックシートを授業力向上に役立てたと回答する教師90%以上	・授業作りステップ1・2・3の活用 ・対話的な学びを取り入れた授業の充実 ・児童が考える楽しさを味わう授業の充実		・		・		・	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	〇道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした教師90%以上 〇アンケートにおいて、「困っている友達がいたら助けたり、友達が嫌がることをしたりしない」と答えた児童85%以上	・「特別の教科 道徳」の研修を深め、教科書や教材の活用方法を工夫し、日頃の授業研究に努める。 ・友だちを「～さん」で呼ぶようにし、思いやりの心を持たせる。 ・人権集会を行ったり、人権標語を書いたりすることで、人権について考える機会を持つ。		・		・		・	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	〇学校評価アンケートで「学校が楽しい」と答える児童90%以上。 〇いじめの防止、事案への対応について、組織的な対応ができていると答える職員85%以上。	・生活アンケートの回答を確認し、いじめにつながる事案について対応する。 ・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルの確認・周知を行う。 ・いじめを認知・覚知した場合、ケース会議等を開き、早急に対応する。		・		・		・	
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	〇「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%	・児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとする教育活動を仕組む。 ・年間や学期ごとのめあてや振り返りのためにクリアパスポートを活用する。家庭に持ち帰り一言コメントを保護者に書いてもらうなど、保護者が知る機会を増やす。 ・コロナ禍で制限がある中ではあるが、目標をもって中学校に進学するための交流・体験活動・インタビュー活動を可能な限り行っていく		・		・		・	
●健康・体つくり	❸「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	❸「健康に食事は大切である」と考える児童95%以上）	・年に1回は食育に関する授業を行うよう、担任に呼びかけて実施する。 ・給食週間等で、給食のよさを伝えたり、食事と健康について考えたりする機会を作る。		・		・		・	
	❷「望ましい生活習慣の形成」	〇1日の睡眠時間が1～3年生は9時間以上、4～6年生は8時間以上が80%以上	・月に1回、保健便りや掲示物を通して、睡眠の大切さやTV・ゲームの習慣の見直しを呼びかける。 ・学年集会などでも睡眠の実態を確認し、十分な睡眠時間を確保できるよう指導する。		・		・		・	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ・昨年度の月平均時間外労働時間を5時間減らす	・今年度見直した校時表を有効に活用し、放課後の業務を効率的に行う。 ・休業期間の有効活用。 ①年休取得日数を具体的に示すことで計画的に取得し、心身のリフレッシュを図る。 ②日頃の業務を軽減できるよう、休業中にできることを考えて、計画的に進めておく。		・		・		・	
	〇残業時間の短縮	〇19時まで（定時退勤日は18時）に退勤可能な職員を目指す。 ・退勤完了が実施できている職員9割以上	・19時までに退勤する職員9割を目標とし、時間を見ながら互いに声を掛け合う。		・		・		・	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上	・授業参観で教科「日本語」の授業を公開する。 ・学年・学校便り等で、教科「日本語」の授業で学習した内容を保護者に知らせる。		・		・		・	
〇小中一貫教育の充実	〇学びと体と心の充実 ・特別支援教育・生徒指導・教育相談の連携 ・学力向上、交流活動の連携	〇保護者による学校評価アンケートで「小中一貫教育に取り組んでいることを知っている」の回答を85%以上 〇小中合同校内研で児童生徒理解が深まったと回答する教員を80%以上 〇学力向上や交流活動を通して「次年度や中学につながる学力を身に付けさせることができた」と解答する教員80%以上	・授業の規律や改善等を小中で実践したことを小中一貫便りやHPで知らせる。 ・業務改善のためにMeetでの合同研だけでなく、対面での合同研や具体的な指導内容の情報共有を行い、連携を深める。 ・各学年や各部会で小中を通して身に付けさせたい力を話し合い実践していく。		・		・		・	
〇地域と共にある学校の推進	〇コミュニティ・スクールの活用	〇コミュニティ・スクールの4つの柱（学習支援・行事体験・環境整備・地域の安全・安心）が活発に行われていると感じた教員・保護者・学校運営協議会委員の回答率85%以上	・学校行事等の積極的な協力依頼（お茶摘み体験、運動会、交通安全教室、生活科・総合的な学習等の学習支援） ・「基里っ子見守り隊」による登下校の安全確保 ・学習環境面の支援 ・活動についての情報公開（コミュニティ便り、HP、.まちこみメール配信等）		・		・		・	

●･･･県共通　★･･･鳥栖市共通　〇･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・